

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮原因プランクトンであるケラチウム属が最大2細胞/ml確認されました。

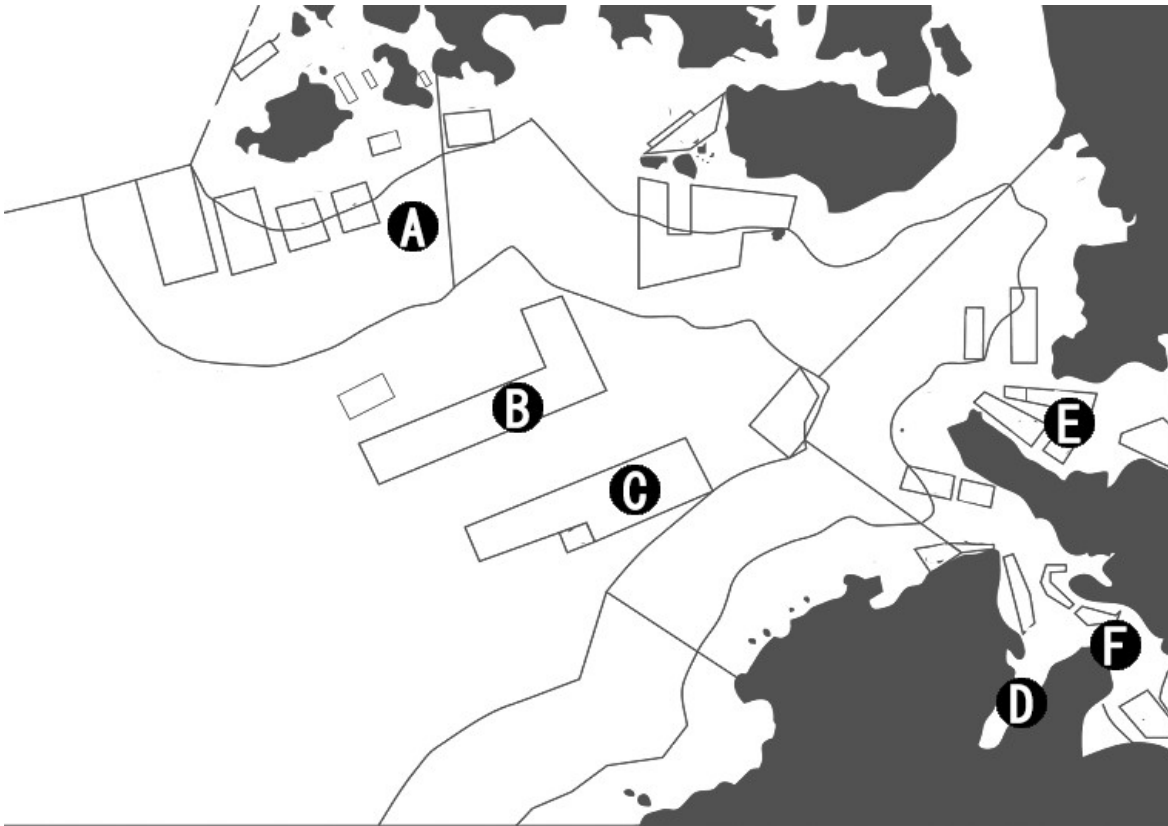
今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	ケラチウム 属	クロロディニウム・ ポリクリコイデス
A 藻津 (-/35.8m) 【09:14】	0	24.1	31.7	7.3	0	0
	5	24.1	33.5	7.0	0	0
	★ 6	24.0	33.5	7.0	0	0
	10	23.0	33.8	6.7	0	0
	15	22.7	33.9	6.4	-	-
	20	22.0	34.0	5.5	-	-
B 大島中央 (-/32.4m) 【09:24】	0	24.0	30.3	7.0	0	0
	★ 5	23.5	33.7	6.9	0	0
	10	23.1	33.9	6.7	0	0
	15	22.5	33.9	5.9	-	-
	20	22.1	34.0	5.4	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.5m) 【09:34】	0	24.2	29.3	7.2	0	0
	5	23.8	33.7	6.7	0	0
	★ 10	22.9	33.9	6.2	0	0
	15	22.6	33.9	6.6	-	-
	20	21.9	34.0	5.8	-	-
D 栄喜奥 (-/13.3m) 【09:55】	0	24.6	32.3	7.1	0	0
	★ 3	24.4	33.6	7.1	0	0
	5	24.4	33.7	7.1	0	0
	10	23.5	33.8	6.6	2	0
E ヒロウラ (-/24.7m) 【10:18】	0	24.3	32.0	6.9	1	0
	★ 5	23.7	33.7	7.1	0	0
	10	22.9	33.9	6.4	0	0
	15	22.2	34.0	5.8	-	-
	20	21.8	34.0	5.8	-	-
F 青瀬山 (-/16.4m) 【10:04】	0	25.0	29.7	6.4	0	0
	5	24.4	33.7	7.1	0	0
	★ 10	23.5	33.8	6.9	0	0
	15	22.7	33.9	6.2	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津 D: 栄喜奥
- B: 大島中央 E: ヒロウラ
- C: 小筑紫中央 F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。